

自治大卒業生の声①

自治大学校卒業生（第2部課程第183期）

茨木市役所 東 利之

編集者注：本稿は、自治大学校における演習・講義の特長や卒業後の研修効果の発揮などについて、自治大学校の卒業生が記したものです。

1 はじめに

平成30年6月18日に発生した大阪府北部地震の災害対応に追われる中、私は自治大学校派遣の推薦決定をいただきました。このような状況の中で現場を離れてよいのか？と迷いましたが、周りの協力と後押しを得て、参加させていただくことができました。

入庁から20年目、キャリアを積んでいく中で、日々の業務に追われる毎日。そんな中で、自治大学校派遣の申込に目がとまり、今しかないと思い、入校を希望しました。希望した理由は、地方公共団体が抱えている諸課題や公共政策など、国や地方自治体全体を俯瞰して見るができるように、純粹に学びたいと感じたことと、自分自身今後どうなりたいのか、そのために今、何が足りないのか？ということを探りたいとの思いがあったことです。

2 研修の概要

私は、第2部課程のみに参加しました。基本法制研修は選択制となり、そのかわり事前に、e-ラーニングで地方自治制度、地方公務員制度、地方税財政制度、行政法の4教科を学習することが必須とされ、改めて学び直すよい機会となりました。

また、講義では、第一線で活躍される様々な分野の講師の方々が、地方公共団体を取り巻く諸課題について、旬の話題や最新の取組みなど高度かつ興味深い内容を取り上げており、研修課程全体を通じて幅広い分

野の知識の習得ができるようカリキュラムが組まれています。

さらに、研修生が主体的に取り組む演習に多くの時間が割り当てられており、政策立案演習は、行政課題の解決に向けた施策を企画、立案し、立案者として市町村長に上申できるものを作成するという実践的なものでした。また、事例演習には、地方公共団体が直面する政策課題について、事前課題としてテキストが用意された「テキスト型」と行政の現場で直面している具体的な行政課題を検討する「持寄り型」がありました。これらの演習は、「問題発見」「問題解決」「政策立案」の能力を向上をさせ、高度な「政策形成能力」を習得することを主眼に置いたものとなっています。

3 研修の特長

研修といえば座学中心のイメージですが、自治大の研修は演習が大きなウエイトを占めています。特に多くの時間と知恵を絞ったのが、政策立案演習でした。この演習では、一般論ではなく、行政課題（テーマ）の選定に始まり、具体的な市町村の設定、現状把握・分析、課題抽出・事例調査・政策提言までを一連の流れとして、費用対効果や実現可能性等を踏まえて検証し、外部教官の指導の下、班員が総力を結集して議論を重ねました。

テーマとする行政課題が自治体の規模や地域性等で異なることや、いかに旬でかつ実効性のある提言にするかということに大変苦勞しましたが、「普段の業務では関わらない他部署・他市町村の職員と交流が出来たこと」で、新たな考えや発想、価値観を知ることができました。また、研修ということ

で、いい意味で、「失敗を過度に恐れることなく、積極的な挑戦ができたこと」で、普段の業務と異なる分野の行政課題について、グループとして大胆なチャレンジができました。現場での政策立案時にも自ら調べ、考え、まとめ上げ、説得力を持って伝える能力が養える内容であったと感じています。

4 研修後について

自治大で学んだことが、研修後、業務に活用できているかといえば、今のところ直接的な研修効果が出ているとは言えません。しかし、「視点、意識、行動」は、格段に変化してきています。

まず、多く知識を得ることができたことにより、これまでよりも広い視野を持って、仕事の目的と効果をしっかりと見据え、今何が求められているのかを見極める視点。

次に、現実性のある大きな夢をもって、今できることを全力で取り組む「着眼大局・着手小局」の意識。

そして、市町村を担う幹部職員になるべく組織活性化とリーダーシップを意識した行動。

これらの変化は、自治大での講義と演習を通じて、自分の強みと弱みを見極める機会をいただいたことによるものであり、これからの公務員人生の大きな糧になると感じています。

5 おわりに

一般的に、研修は「業務が忙しい中、参加が厳しい。」とか「現場ではそれほど活かさない。」など、ややネガティブなイメージが多いと思います。しかし、自治大は、仕事や家庭から離れる不安や懸念以上に「自分自身を見つめ直す機会」、「全国各地の素晴らしい仲間」、「知識と経験」が得られる数少ない場所であり、研修を受講する価値は十分にあると実感しています。研修のみに没頭できた自治大での約3か月間は、私にとっ

て後にも先にもない経験だと思います。

また、この素晴らしい自治大での経験と感動を共有できる方が一人でも多くなることを心から願っております。

最後に、今後も周りへの感謝を忘れず、「行政のプロ」としての使命感をもって、自治大で得た数多くの知識と経験を、住民のために還元できるよう努めていきたいと思っています。